市議会あんな話・こんな話 ～第26話～

鴨池遊園地の買収

大正元年に電車を走らせ始めた鹿児島電気軌道株式会社が、乗客獲得対策として島津家ゆかりの会社から鴨池の広大な土地を借り受け、ここに動物園を誘致、野球場や運動場を造って盛んに野球の試合や市民運動会を主催していました。

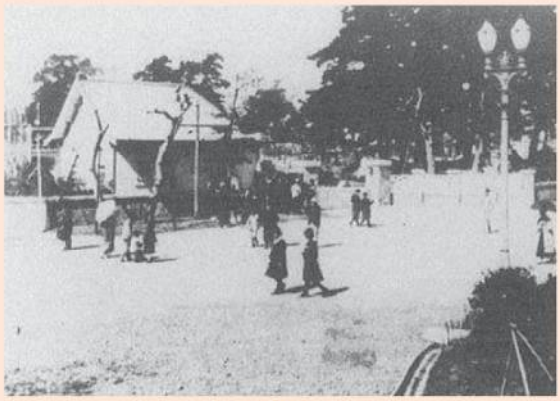
この鴨池遊園地を市で買収することを思いついたのは白男川市長でした。電気軌道を買収して市で市電を走らせることを計画したときには、全体構想の中に鴨池遊園地買収計画が含まれていたと伝えられています。

昭和3年7月、同社に「鴨池遊園地を市で買い取りたい」と申し入れました。しかし、金額的に折り合わず、話は物別れで一時凍結状態となり、白男川市長は3年11月に退職しました。

その後、4年6月に樺山新市長が誕生すると、市会（市議会）議員との間で買収問題が再燃し、鹿児島市会側は電車委員たちが現地視察をして妥当な買収価格等について結論を出しました。

そして、4年10月16日の市会は「鴨池遊園地買収の件」について協議を重ね、鴨池遊園地約4万9千坪を同社から32万円で買収することを満場一致で議決しました。

やがて太平洋戦争の進展に伴い、18年4月、鴨池遊園地の陸上競技場と野球場は海軍航空隊の練兵場に変わり、動物園のトラやライオンなどは「空襲のとき逃げ出されては危険だ」との理由で、18年10月に殺処分されました。



昭和初めごろの鴨池動物園